

# 福駅(阪神なんば線) 市内に残る数少ない漁港・福へ



「大阪あそび歩マップ集」  
その3 No.101

## 阪神福駅

### ① 福住吉神社

江戸時代の初め、正保元年(1644)に福が開発され、漁民が増えたことから、豊漁と海の安全を祈って、明暦2年(1656)に神崎川の川床に宮地を築き、住吉四柱大神を勧請しました。かつては8月1日に豊漁を祈る海神祭がおこなわれていました。



### ② 大野川緑陰道路

大野川は、神崎川から分岐して新淀川に流れる延長約6キロ、幅約30メートルの川でした。明治末期から大正時代にかけて大野川沿岸に工場が立ち並び、河川汚濁がひどくなって、次第に河川機能を失うようになりました。そのため、昭和30年(1955)ごろから埋め立てられ、昭和46年(1971)からは遊歩道と自転車専用道路が整備された緑陰道路の工事が行われ、昭和54年(1979)に全道が完成しました。

### ③ 福漁港(福の舟溜まり)

大阪市内に残る数少ない漁港の



ひとつで、大正から昭和10年(1935)ごろが漁業の最盛期でした。淀川の対岸に伝法漁港の水門が見えます。

### ④ 矢倉緑地

淀川沿いの道を河口の方向に足をのばすと、先端に矢倉緑地があります。このあたりは京都・下立売の鍵屋・矢倉九右衛門が西島新田(出来島の西のあたり)の中野清芳とともに安永5年(1776)に開発した矢倉新田です。矢倉新田は度重なる高潮の被害を受け、淀川の大改修工事ではほ

とんどが河川敷になりました。現在、淀川と神崎川にはさまれた西端が矢倉緑地となっており、矢倉緑地は昭和9年(1934)に第1室戸台風で水没した田畑を埋め立てた土地で、平成12年(2000)に開園しました。市内ではめずらしく自然石で海水面と接する公園で、潮溜まりがあり、小魚が泳ぐ様子が見えます。渡り鳥の滞留地になっており、カルガモやユリカモメが見られます。大阪湾に沈む夕陽が美しく見えます。

## 阪神福駅

